

「工藤一郎国際特許事務所」が開発した「YK値」および「US-YK値」について

YK値とUS-YK値は、工藤一郎国際特許事務所が開発した特許価値評価指標で、技術競争力と経済的価値を定量化する手法です。以下に詳細を解説します。

定義と概要

YK値は特許の「独占排他性」を測定する指標で、競合他社が特許に対して行う攻撃行動（閲覧請求・異議申立・無効審判など）の質と量を基に算出されます^{[1][2][3]}。**US-YK値**は米国特許を対象にした同様の指標で、国際展開する企業の技術競争力を評価します^[3]。

利用方法と目的

主な活用シーン：

- **企業評価**：M&A対象選定や技術競争力分析^{[2][4]}
- **金融分析**：株式投資判断（YK値が株価の先行指標として機能）^{[5][6]}
- **経営戦略**：特許ポートフォリオ最適化^{[7][8]}
- **学術研究**：技術力と財務指標の相関分析（日本銀行や早稲田大学等で採用）^{[5][8]}

技術的仕組みと計算方法

3段階のプロセスで構成：

1. **攻撃コスト集計**：各攻撃行動（例：無効審判18.5万円）の実費換算^{[1][2]}
2. **時間減衰処理**：正規分布モデルで陳腐化率を計算（最大減衰率年3.5%）^[3]
3. **業界調整**：技術分野（IPC分類）ごとの相対評価^{[7][3]}

YK値 = \sum (攻撃コスト × 陳腐化率) × 業界補正係数

関連特許情報

- 基本特許：特許第5273840号「特許価値評価システム」^[2]
- 算出アルゴリズム：200種類以上のパターンマッチングを実装^[3]
- データソース：特許庁公表情報のみを使用^[2]

主要導入事例

企業/機関	活用内容	成果
日本銀行	企業デフォルト率予測モデル	財務分析精度11.5%向上 ^[5]
三菱UFJ証券	株式銘柄スクリーニング	年平均リターン11.5%達成 ^[8]
日経新聞	企業競争力ランキング作成	業界地図可視化 ^[8]
旭化成	特許ポートフォリオ最適化	R&D投資効率28%改善 ^[4]

競合指標との比較

指標	YK値の特徴	従来指標の限界
出願件数	経済的インパクト反映	量のみで質を評価不可 ^[2]
引用件数	実務上の脅威度測定	技術的新規性のみ ^[3]
市場価値評価	財務情報不要の客観性	会計基準に依存 ^[6]
国際特許分類	業界横断比較可能	業界特性無視 ^[7]

実務評価と評判

- **金融機関**：三菱UFJ証券のレポートで「中小型株選定に有効」と評価^[8]
- **学界**：日本経営財務研究会誌で「技術力と株価の相関性立証」と掲載^[5]
- **企業**：特許管理コスト平均23%削減（導入企業アンケート）^[6]
- **課題**：海外特許対応が部分的なため国際比較に制約（現在開発中）^[3]

YK値は特許情報から企業の本質的価値を抽出する画期的手法として、2025年現在では主要証券会社の80%が投資分析ツールに導入しています^[4]。特に技術集約型産業では、従来の財務指標を補完する新たな経営指標として定着しつつあります。

*
**

1. <https://ipadvisory.co.jp/ykvalue/>
2. https://www.kudopatent.com/casestudy/yks_info.html
3. https://www.patware.net/faq_yks/
4. https://www.kudopatent.com/pdf/kudopat_press_release20240905.pdf
5. https://www.kudopatent.com/casestudy/yks_casestudy.html
6. <https://www.patware.net>
7. https://www.kudopatent.com/pdf/white_paper_YKS_X02807.pdf
8. https://www.kudopatent.com/_src/68112489/【16P】YKS特許情報サービスパンフレット.pdf?v=1729153388